

愛川町教育委員会

令和6年1月23日

愛川町教育委員会 1 月定例会会議録

- 1 会議日程 令和6年1月23日(火)
午前9時から午前9時45分
- 2 会議場所 愛川町役場2階201会議室
- 3 議事日程 日程第1 会議録の承認について
日程第2 教育長報告事項について
(1) 教育長報告
日程第3 令和5年度愛川町就学措置の報告について
日程第4 協議事項
(1) 卒業式・入学式「教育委員会のことば」について
日程第5 その他
(1) 中学2年生職場体験の評価・反省について
(2) 令和6年第56回愛川町十四歳立志式について
(3) 市町村対抗「かながわ駅伝」競走大会について
- 4 出席委員 教育長 佐藤 照明
教育委員(教育長職務代理者) 大貫 洋
教育委員 梅澤 秋久
教育委員 篠崎 美和
教育委員 齊郷 浩之
- 5 説明を要した者及び議事録作成のため出席した者
教育次長 澤村 建治
教育総務課長 宮地 大公
指導室長 菅沼 知香子
教育開発センター所長 瀧 喜典

生涯学習課長

上 村 和 彦

スポーツ・文化振興課長

齋 藤 潤

教育総務課主任主事

池 村 茉莉子

◎開会

- （佐藤教育長） 皆さん、おはようございます。

それでは、本日の出席者は5人です。定足数に達しておりますので、愛川町教育委員会1月定例会は成立いたしました。

よって、これより開会いたします。

本日の議事日程はお手元に配付のとおりでありますから、ご了承願います。

これより日程に入ります。

◎日程第1

- （佐藤教育長） 初めに、日程第1、会議録の承認についてを議題といたします。

12月定例会開催分でございます。会議録については事前に配付のとおりであります。

これより質疑に入ります。

ご意見、ご質疑ありましたら、発言をお願いいたします。

特によろしいでしょうか。

（「はい」との声あり）

- （佐藤教育長） 特に質疑ありませんので、質疑を終結し、表決に入ります。

日程第1、会議録の承認についてであります。本案を原案のとおり承認することにご異議ございませんか。

（「異議なし」との声あり）

- （佐藤教育長） ご異議ないものと認めます。

よって、日程第1は原案のとおり承認されました。

なお、本定例会終了後に会議録署名原本をお回しいたしますので、委員の方は署名をお願いいたします。

◎日程第2

○（佐藤教育長） 次に、日程第2、教育長報告事項についてを議題といたします。

初めに、教育長報告について資料1に基づき、私から報告をさせていただきます。

令和5年12月19日から令和6年1月22日までの間に出席いたしました主な会議等について報告をさせていただきます。

12月19日、午前に教育委員会定例会、教育委員会全員協議会、午後に半原小学校の学校訪問がありました。同日夕方、教育委員会の表彰式、随時表彰を行いました。

20日、表敬訪問、SC相模原シーズン終了報告ということで、SC相模原の方が町のほうに訪問されました。教職員県央交流面接、愛甲郡町村会の懇談会が厚木でありましたので、参加をいたしました。

21日、学校訪問で中津小学校に行っていました。SEISA OSAレイア湘南FC感謝の会ということで、これは、SEISA OSAレイア湘南FCが、なでしこリーグの2部に昇格をしたということで、感謝の会がありましたので、行ってまいりました。この感謝の会に声がかかったきっかけは、このチームが、三増運動公園の芝のコートを使用されていたことにあります。

22日、半原小学校の校長先生、愛川高校の校長先生が各々来室されました。県教育委員会の永年勤続表彰伝達式がございました。2人の先生が表彰されましたので、伝達いたしました。25年表彰になります。

26日、土地開発公社理事会がございましたので、参加をいたしました。

27日、令和5年秋の叙勲で平本幸一様を受賞されまして、その報告に町のほうに来られましたので、対応いたしました。社会教育委員会の議長さんが来室されました。町内の施設巡回ということで、年末ですので、各施設、スポーツ施設、文化施設等を回って挨拶をしてまいりました。

28日、仕事納め式、これは教育委員会の中での仕事納め式を行いました。

年が明けて1月4日、仕事始め式、これは町全体の仕事始め式になります。

5日、山北町の教育長さんが退任のご挨拶に来られました。

6日、消防出初め式がございました。これは、文化会館のかえで広場、消防庁舎の敷地内で行われました。

7日、愛川町の一周駅伝競走大会、ご協力をいただきましたけれども、34チーム、200名を超える選手の皆さんが走っていただきました。二十歳のつどい、これは今年度参加率が80%ということで、287名の成人になられた方々が参加をして、実行委員を中心に、非常に

良い式になったのではないかなというふうに思っています。

9日、政策調整会議。

10日、県央教育事務所の副所長が来室されました。同日、厚木警察署を訪問いたしまして、駅伝、そして二十歳のつどいの警備等についてお礼に行ってきました。また、県央愛川農協を訪問いたしました。こちらにも駅伝競走大会にご協力をいただきましたので、ご挨拶に行っていました。

11日、第1回議会臨時会、午後、新春講演会と商工団体の賀詞交歓会に参加をいたしました。

13日、福祉団体の合同の新年賀詞交歓会が文化会館で行われましたので、参加をいたしました。

裏面にいきまして、15日、行政経営会議。そして、国際ソロブチミストの皆さんが来室されました。これは小学1年生向けに上履きなどを入れる学用品袋を作ってくださいまして、それを小学校に寄贈したいというような申出がありました。まだ製作中の学用品袋もあるということで、揃い次第、小学校にお渡ししたいと思っています。

16日が教職員の県央交流の面接がございました。民生委員児童委員協議会の賀詞交歓会。

17日は、小中校長会議がありましたので、新年スタートの段階で確認事項等をいたしました。

18日、青少年指導員連絡協議会の会議がありましたので、参加をいたしました。特に、2年任期が終わるため、これが最後の会議でありました。

20日、スポーツ協会の賀詞交歓会がございましたので、参加をいたしました。4年ぶりの開催ということで、交流が図られたのではないかなというふうに思います。

報告は以上です。

これより質疑に入ります。

ご意見、ご質疑ありましたら、お願いいたします。

特によろしいでしょうか。

(「特になし」との声あり)

○(佐藤教育長) それでは、特にご質問等がございませんので、日程第1、教育長報告事項については以上とさせていただきます。

◎日程第3

- （佐藤教育長） 次に、日程第3、議案第19号 令和5年度愛川町就学措置の報告についてを議題といたします。

詳細については担当から説明申し上げます。

指導室長。

- （菅沼指導室長） それでは、本件について報告のほうをさせていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

資料のほうは、教育委員会提出議案第19号と表紙のついているものがございますので、ご確認ください。

令和6年度の愛川町就学措置について報告を申し上げます。

この件につきましては、1枚おめくりいただいて、概略の辺りを見ていただくとよいのですが、今年度の4月の定例会におきまして、愛川町教育支援についてご協議をいただいて、令和6年度の就学分で対応してまいった件でございます。

概略につきましては、この資料にございますとおり、年度当初3回の計画でしたけれども、臨時の委員会1回を加えまして、全部で4回の開催といたしました。

審議対象の子どもたちの総数は74名、教育支援委員会の答申を受けまして、保護者との同意形成を図ってございます。

詳細につきましては、下半分の2の表のほうをご覧ください。表は、小中学校別の表となっております。

説明は以上でございます。

- （佐藤教育長） これより質疑に入ります。

ご質疑、ご意見等がありましたら、お願いいたします。

梅澤委員。

- （梅澤委員） 小学校のほうで、教育支援委員会の答申数と就学措置の数が、通常学級の数が多少違うのかなというふうに思われます。いわゆる、自閉、情緒傾向にあるのではないかなというお子さんが通常学級へ4名、恐らく就学するような形に結果なっているのかなと思うのですが、結論はこれでいいと思うんです。我々は就学支援をすることしかできませんので、一方で、専門家から見て多少配慮が必要かなと思われたお子さんが通常学級に4名入るということをこれは表していると思われますので、そこに対する、やはりスタッフの配置等を教

育委員会でしっかりしていくべきかなというふうに思います、という感想です。

○（佐藤教育長） 指導室長。

○（菅沼指導室長） サポーターの配置を学校さんとも相談しながら進めていかなければと思います。可能な限り支援ができるようにしていきたいと思います。

○（梅澤委員） ありがとうございます。

○（佐藤教育長） 他にいかがでしょう。

よろしいでしょうか。

（「特になし」との声あり）

○（佐藤教育長） それでは、他に質疑等がございませんので、質疑を終結し、表決に入ります。

議案第19号 令和5年度愛川町就学措置の報告について、本案を原案のとおり決することにご異議ありませんか。

（「異議なし」との声あり）

○（佐藤教育長） ご異議ないものと認めます。

よって、議案第19号 令和5年度愛川町就学措置の報告については原案のとおり可決されました。

◎日程第4

○（佐藤教育長） 次に、日程第4、協議事項についてを議題といたします。

初めに、卒業式・入学式「教育委員会のことば」について、資料2に基づき担当からご説明申し上げます。

指導室長。

○（菅沼指導室長） 指導室長です。

それでは、資料2-1と書いてあるもの、4枚つづりのものをご覧ください。

こちら、最初の2枚が卒業式の際の「教育委員会のことば」となっております。最初が小学校、2枚目が中学校。それから、3枚目と4枚目が入学式の際の「教育委員会のことば」となっております。最初が小学校、小学校は1年生ですので、振り仮名のほうをつけて出したいと思います。中学校が最後のページとなっております。

問題がなければ、これで行かせていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

以上です。

○（佐藤教育長） では、順番にいきたいと思います。

卒業式のほうの、まず小学校ですね。「教育委員会のことば」、資料2-1になりますけれども、これについてはいかがでしょうか。

指導室長。

○（菅沼指導室長） 指導室長です。

1枚目は、中学校に入る子に対する言葉になっています。小学校の卒業式言葉なので、ちょっとどきどきする感じがあるという前提になっています。その子たちの入学式のときの言葉が最後の4枚目になっていて、こちらのほうは、ちょっと不安要素は少し薄めに、わくわく感のほうを強めに出しているという感じですね。

○（佐藤教育長） 基本的には、今のこの文言で取りあえず進めるということによろしいでしょうか。

（「異議なし」との声あり）

○（佐藤教育長） 資料2-2はいかがですか。中学校の卒業式ですね。

篠崎委員。

○（篠崎委員） 資料2-2なんですけれども、中段の下のほうですね、「皆さんが、これからも人と人とのつながりを」の一文のところなんですけれども、社会の新しい時代を担う人としてますます成長「される」のほう为上の文章と何となく言葉遣いの感じが合うのかなという印象を受けました。

以上です。

○（佐藤教育長） どうでしょうか、今の意見に対して。

○（大貫委員） 私も「成長される」のほうがいいと思います。

○（佐藤教育長） そうですね。どうですか、指導室長。

○（菅沼指導室長） そのほうが収まりがいいと思いますので、こう書き換えさせていただきたいと思います。ありがとうございます。

○（佐藤教育長） 「成長する」ではなく、「成長される」に訂正ということでお願いいたします。

他にいかがでしょうか。

では、よろしいでしょうか。

（「特になし」との声あり）

○（佐藤教育長） それでは、次の入学式言葉はいかがでしょう、資料2-3になります

けれども、気になることがありましたらどうぞ。

梅澤委員。

○（梅澤委員） ルビについてです。

個人的には、多様な国からの子どもたちを受け入れる地域としては、ルビはないほうがいかなというのが率直な感想です。と申しますのは、今、グーグル翻訳をやってみたんです。このルビによって翻訳がぶれます。

恐らく海外から来られる方で、スマホを持っていない方はほぼいらっしやらないと思うんですね。このルビがある中でグーグル翻訳、今、カメラ機能があって、グーグルレンズで撮影すると自動翻訳をしてくれるんですけども、分かりやすいのは第三節です。「これから始まる」のところですね。There are many exciting thingsというふうに始まるんですが、ルビの最初の「はじ」はローマ字でh a j i、全く訳されていない「はじ」になります。一方で2つ目の「しょうがっこう」は、何とgingerとなっています。ショウガです。その後の「生活」は、今度はLife、ちゃんと英語に訳されています。

ということで、このルビ問題って、今、実は多文化共生の中で結構大きな問題になっていて、ルビがあることによって親が全く読めないということが生じるかなと思われまます。

先ほどの室長の話では、小学生がという話だったので、もし小学生向けにルビを入れるのであれば、これを本町の入学生の中で入ってくるであろう国の言語に翻訳したものを下にQRコードで載せておく、例えばポルトガル語、スペイン語、英語とかで、その上にイングリッシュとかという形でQRコードをつけておけば、それぞれの国の保護者がこの入学の言葉を読むことができるのではないかなというふうに考えます。

そのQRコード化は、かなり多様な対応が可能になりますし、3枚つけること、あるいはうちの国の言葉がないじゃないかみたいな感じで6枚も7枚もつけるよりも、QRコードを5個、6個下に小さくつけてしまえば済む問題なので、そのあたりが解決策になるのかなというように思います。どうでしょうか。

○（佐藤教育長） というご意見ですけれども、いかがでしょうか。

指導室長。

○（菅沼指導室長） 全ての言語を網羅することはできないと思っています、多様過ぎて。

○（梅澤委員） 全言語は無理ですよ。だから、うちの町に入りそうな、少なくとも中津小学校で、今、10言語。

○（佐藤教育長） そうですね。10とか11ぐらいですよ。

○（梅澤委員） あるいは、各自でスマホなどで訳していただくならば、ルビがないものをつくる。

○（菅沼指導室長） そうですね。ルビなし版を作ったり、オール平仮名版をつけるとか、そちらのほうが現実的な対応かなというふうに今の感覚では思っています。

翻訳版を作れば、多分一番いいんでしょうけれども、そこまで対応し切れるかどうかちょっと今言語の種類の問題もあり即答しかねるので、翻訳の邪魔にならない形を考えるようにさせていただきたいなと思っています。

○（梅澤委員） 上にこのままルビなし、下に全部平仮名でもいけるかなと思います。

○（菅沼指導室長） 検討します。

○（梅澤委員） グローバルな時代なので、それに合わせた対応を、特にこういう本町はしていく必要があるかなと思いますね。一部の人だけにいいというのは、まさにG I G Aの対応からは、ずれていっているかなと思われまので、Global and Innovation Gateway for ALL（グローバル アンド イノベーション ゲートウェイ フォー オール）がG I G Aの略ですから、ぜひ子どもたちも1人1台持っている時代なので、そういう対応も必要かなと思います。

○（佐藤教育長） では、今のを参考にして、ルビなしのものを用意して、それで翻訳をしていただくような形を考えていくということが一番妥当かなというふうに思いますね。このような方向で検討してください。

○（菅沼指導室長） 承知いたしました。

○（佐藤教育長） よろしいでしょうか。

（「はい」との声あり）

○（佐藤教育長） 大貫委員。

○（大貫委員） 一番最後の「令和6年4月8日」、これ8日って、我々は「ヨウカ」って読むよね。でも、そういう人たちにどういうふうな表現をしたらいいんだろうか。

○（佐藤教育長） ルビがなければ、そのままもう翻訳、数字は翻訳できるので、問題ないと思います。

○（大貫委員） 承知致しました。

○（佐藤教育長） 他にいかがでしょうか。

篠崎委員。

○（篠崎委員） 多分何年か前は、保護者向けだけの文章だったと思うんですが、入学してく

る子どもたちに向けて伝えてほしいなと私の方で言わせていただいて、子ども向けに最初に書いていただいているんだと思うんですけども、今のような問題があるのであれば、最初にほんのちょっとの文でもいいので、子どもたちに平仮名で書いてあげて、あとはルビなしでつくっていただいてというような形を取っていただければいいのかなというふうに感じました。よろしくお願いいたします。

○（菅沼指導室長） 分かりました。

○（佐藤教育長） 他によろしいでしょうか。

それでは、中学校の入学式の資料2－4ですね。

これについてはいかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

（「特になし」との声あり）

○（佐藤教育長） それでは、今、幾つかご意見いただきましたので、そのところは再度作り直していただいて、修正をお願いしたいと思います。

他に質疑、ご意見等がありますでしょうか。

（「特になし」との声あり）

よろしいでしょうか。

他にございませんので、卒業式・入学式「教育委員会のことば」についてはご了承願います。

それでは、日程第4、協議事項については以上とさせていただきます。

◎日程第5

○（佐藤教育長） 次に、その他に入りたいと思います。

初めに、中学2年生職場体験の評価・反省について、資料3に基づき担当から説明申し上げます。

教育開発センター所長。

○（瀧教育開発センター所長） 教育開発センター所長です。

では、資料3をご覧ください。

令和5年度職場体験及び職場体験検討会議の評価・反省についての資料でございます。

今年度の職場体験は、令和元年度以来4年ぶりに実際の事業所での体験を実施することができました。こちらの資料、アンケート結果の概要順に読み上げさせていただきます。めく

った後ろにグラフもありますので、併せてご覧ください。

最初に生徒アンケートですけれども、全体的に肯定的な回答が多かったです。自分の将来について考えることができたの項目では、肯定的な回答が77.7%と割合がやや低いため、事前、事後指導の工夫が必要と考えられます。

続いて、保護者アンケートですが、職場体験の内容や様子について家庭で話し合った、機会があればまた参加させたいと答えた保護者は90%を超えました。一方、将来の進路や職業について家庭で話し合ったとの答えは60.7%にとどまっております。生徒と保護者が対話する機会の大切さを伝えていくことや学校からの情報提供も必要であると考えます。

続いて、事業所のアンケートからは、おおむね肯定的な評価であります。職場になじむ、職場の方とコミュニケーションを取るなどの人間関係づくりについて、前回実施の令和元年度は89.8%が肯定的な回答だったのに対し、令和5年度は84%とやや下がっております。職場体験の意義等を生徒が十分に理解できるように指導していく必要があると感じました。コロナ禍において人と関わる活動が減っているため、今回の職場体験は貴重な経験となったと思われまます。

次に、教員のアンケートですけれども、事前指導は十分に行えたの項目が95%で、先生方が職場体験の意義を踏まえて、入念に準備、指導に当たっていただいたことが分かります。挨拶や社会的マナーが身につけてきた、進路学習への意欲が高まってきたについては、肯定的な回答が70%から75%程度であり、職場体験以外の場面でも意識していけるとよいと感じました。

4年ぶりではありましたが、経験のある先生方のお力をお借りしながら、職場体験の事業を終えることができました。今年度の反省を生かし、今後も職場体験学習の狙いに沿った事業を展開してまいりたいと思います。

なお、職場体験に行った感想等をまとめ、写真と合わせて事業所へお届けするというものを今作成しております。間もなく完成いたします。完成しましたら、教育委員さんのお手元にも一部ずつお届けさせていただきたいと考えております。

説明は以上です。

○（佐藤教育長） これより質疑に入ります。

ご質疑、ご意見等がありましたらお願いいたします。

大貫委員。

○（大貫委員） 今の評価、反省のまとめで、事業所からのアンケートで、コミュニケーショ

ンを取るなどの人間関係づくりが前回のパーセンテージよりもやや下がったという記述があるんですけども、要するに前回に比べて、前回とといったって数年前だから、ちょっと比較が難しいけれども、前回に比べると今回の職場に来た中学生のほうがあまりコミュニケーションを取るのがうまくなかったということでしょうか。

○（佐藤教育長） 教育開発センター所長。

○（瀧教育開発センター所長） まず、令和元年度との比較ということで、コミュニケーション力が少し低下しているのかということなんですけれども、やはりコロナの関係で3年間、4年間のブランクがあったというところで、なかなか子どもたちにもそういう地域だとか、周りの友人関係だとか、そういったところの人間関係づくりがうまくいっていないのは現状としてあるのかなと思いますので、そういった反応が職場の事業所の方からそういうふうに使われている部分というのは、多少なりともあったのかなと思います。

そういった反省を受けて、やはり学校としてもこのアンケート結果は見ておりますので、コミュニケーション、それから、人間関係づくりというのはまた高めていかなければいけない課題なのかなと思っております。

以上です。

○（佐藤教育長） よろしいでしょうか。

他にいかがでしょうか。

篠崎委員。

○（篠崎委員） 保護者アンケートのまとめのところなんですけれども、4番の職場体験のような機会があればまた参加させたいと思いますかという質問で、保護者の方が90%ぐらい参加させたいというふうになっているんですけども、これは何か中学2年生の職場体験以外にも、何か計画されているようなことがあるのかどうかについてお伺いしたいと思います。

○（佐藤教育長） 教育開発センター所長。

○（瀧教育開発センター所長） 町のほうでは職場体験ということで、この企画だけなんですけれども、そういった思いがあるかというところのアンケートの質問項目ということにしています。特に準備はしていません。

○（篠崎委員） はい。分かりました。そうですね。高校などに行きますと、皆さん、それぞれインターンシップなど、いろいろな職場体験を個人で見つけて体験していると思うんですけども、なるべくいろいろな社会の仕事に触れる機会を小学校でも中学校でも少しずつ増えていけばいいなというふうに感じております。

以上です。

- （佐藤教育長） 他にいかがでしょうか。

（「特になし」との声あり）

- （佐藤教育長） では、特にそれ以外にご質疑、ご意見等がないようでございますので、職場体験の評価・反省についてはご了承願います。

次に、令和6年第56回愛川町十四歳立志式について、資料4に基づき担当から説明申し上げます。

生涯学習課長。

- （上村生涯学習課長） それでは、令和6年第56回愛川町十四歳立志式についてご説明申し上げます。

まず、先日の二十歳のつどいにつきましては、4年ぶりに一堂に会しての開催で多くの方に参加をいただきましたが、無事に開催することができました。ありがとうございました。

それでは、令和6年第56回愛川町十四歳立志式につきまして、ご説明申し上げます。

資料4に基づきまして、ご説明申し上げます。

まず、1、目的でございます。将来の自分を考え、目標を持って生きる生徒の育成を図るとともに、将来の愛川町を担っていく青少年の健全育成を推進することとしております。

2、開催の日時でございますが、中学校卒業式の翌日になります。3月13日水曜日、午前9時30分開始といたしております。

3、会場につきましては、文化会館ホールとし、4年ぶりに3中学校の2年生が一堂に集まる形で開催をいたします。

6、内容の式典でございますが、（1）国家斉唱から（4）お祝いの言葉までは対面でのライブで行いまして、（5）わたしたちの誓いにつきましては、事前に撮影したものをまとめた動画を視聴いたします。

講演の講師につきましては、昨年度に引き続き、北極冒険家の荻田泰永さんを予定しており、対面ライブで生徒と顔を合わせて直接やり取りしていただき思いを伝えていただきます。

ご挨拶をいただく教育長、中学校長会長、町長の3名に舞台に登壇いただきまして、ほかの主催者、来賓の皆様におかれましては、客席にご案内をさせていただきます。

教育委員の皆様には、2月の会議において、改めて出欠の確認をさせていただきたいと考えております。

説明は以上です。

○（佐藤教育長） これより質疑に入ります。

ご質疑、ご意見等がありましたらお願いいたします。

（「特になし」との声あり）

○（佐藤教育長） よろしいでしょうか。

4年ぶりということと、あと、各中学校のわたしたちの誓いについては、ステージを使わずに動画で発表するというふうな形になったようでございますので、よろしく申し上げます。

それでは、特に質疑ありませんので、令和6年第56回愛川町十四歳立志式についてはご承願いたします。

次に、市町村対抗「かながわ駅伝」競走大会について、資料5に基づき担当から説明申し上げます。

スポーツ・文化振興課長。

○（齋藤スポーツ・文化振興課長） それでは、（3）市町村対抗「かながわ駅伝」競走大会について、資料5になります。ご案内を兼ねてご説明をさせていただきます。

こちらは、令和元年2月に開催をされました第74回大会以来4年ぶりとなります。

期日は、2月11日日曜日、会場は昨年降雪のため中止となりました77回大会から、これまでの秦野市のカルチャーパークがスタート地点、そこから県立相模湖公園ゴールまでの7区間、51.5キロのコースから、山北町丹沢湖周回コースの7区間、42.2キロのコースに変更になっております。

スタート時間は午前10時、フィニッシュの予定は午後0時10分頃の予定となっております。

資料の裏面が会場となります山北町の丹沢湖の周回コースでございます。

資料の2枚目は、愛川町選手団の名簿となっております。

先日の町一周駅伝競走大会に出場されて好成績を収めた選手を中心に12名が選出されております。その中でも、大学生には力のある選手もそろっておりますので、町村の部2連覇、さらには総合でも大いに期待ができるのではないかと考えております。

教育委員の皆様におかれましては、ぜひ応援をよろしくお願いいたします。

駅伝の説明は以上でございます。

○（佐藤教育長） これより質疑に入ります。

ご質疑、ご意見等がありましたらお願いいたします。

去年は雪の影響か何かで中止になったんでしたよね。

○（齋藤スポーツ・文化振興課長） はい。

- （佐藤教育長） 初めてになりますよね、このコース。
- （齋藤スポーツ・文化振興課長） このコースは初めてです。
- （佐藤教育長） そうですよ。

今までは、秦野から相模湖までのコースだったんですが、今回は周回ということで行われるということです。

特によろしいでしょうか。

（「特になし」との声あり）

- （佐藤教育長） 特に質疑ありませんので、市町村対抗「かながわ駅伝」競走大会についてはご了承願います。

◎閉会

- （佐藤教育長） 以上で、本日の案件について全て終了いたしましたけれども、各委員からご意見、感想等がありましたら、お願いいたします。

（「特になし」との声あり）

- （佐藤教育長） 特によろしいでしょうか。

それでは、事務局のほうで何かございますか。

（「特になし」との声あり）

- （佐藤教育長） それでは、以上で1月の定例会の議事日程全て終了いたしましたので、閉会としたいと思います。ご異議ございませんか。

（「異議なし」との声あり）

- （佐藤教育長） ご異議ないものと認めます。

よって、1月の定例会を閉会といたします。

大変お疲れさまでした。ありがとうございました。

なお、次回の教育委員会定例会は2月27日9時から、この201会議室で開催いたしますので、どうぞよろしくお願いたします。

愛川町教育委員会会議規則第17条第2項の規定により、ここに署名をいたします。

令和6年2月27日

教育委員会教育長

佐藤 昭明

教育委員会

教育長職務代理者

欠 席

教育委員

梅澤 秋久

教育委員

篠崎 美和

教育委員

欠 席

調整職員

池村 茉莉子